



碓東小通信 培根



宍中市立碓東小学校

令和7年3月24日 卒業式特別号

文責：ホロ

素晴らしい卒業式でした！最後の碓東小通信には本日卒業式で読んだ式辞の全文を卒業の贖として掲載いたします。

卒業
おめでとう

式辞

芽吹き春、希望の春、喜びの春、出会いの春。そして別れの春。

碓東小学校に美しく、でも、少しだけ寂しい春がまためぐってきました。

卒業生の皆さんとの出会いは、二年前の春。人懐こく元気な子、物静かにじっくりと物事に取り組む子、クラスをより楽しくしようと進んで工夫する子など、活力に溢れる学年でした。特に印象的だったのは、五年生の時に音楽室から流れてきた流水池ソングの歌声です。聴く人の心の淀みを清らかに流してくれるような、皆さんの澄んだ歌声に心が震えました。そして、昨年五月、同行した修学旅行の行きバスの中で、校歌を元気よく進んで歌うあなた方を「子供らしく心根のまっすぐな良い六年生だな」と思い、大きな期待を抱きました。

皆さんの気づきと考え実行する力のおかげで、今年の碓東小学校はとても明るい学校になりました。気持ち良いあいさつができる人もたくさん増えました。本当にありがとうございます。そんな頼もしい学校のリーダーである皆さんが巣立っていくのはとても寂しいですが、今日の皆さんの晴れ晴れとしたまなざしを見て、心から卒業を祝いたいと思いました。

ご卒業おめでとうございます。

入学してから今日で千百六十八日。大きな数字です。この六年の間には、新型コロナウイルスの大流行があり、一番お友達と遊ぶのが楽しみな低学年の時に、休校や黙食、毎日のマスク生活を経験した皆さんです。大変でしたね。でも、本当によく我慢し、頑張りました。

先ほどお渡しした卒業証書は、その皆さんの頑張りの証なのです。ですから、どうかずっと大切にしてください。

本校の学校教育目標は、今年から「培根～より良く生きる根っこを育てる～」としました。「育てる」というと「子供たちを大人が育てる」というイメージになりがちですが、人が育つのに一番大切なのは、互いの学び合いだと私は思います。

学校は何のためにあるのか、それは、人と出会い、意見を交わし、思いをぶつけ合い、許し合い、分かち合いながら、共に育っていくためにあるのだと思うのです。

皆さんにとってこの碓東小学校はそんな場所だったでしょうか。共に育て合える良き仲間、良き友との出会いはあったでしょうか。

ここで、作家重松清の「きみの友だち」という本のことを少し話します。この物語の主人公恵美はいつもクラスの中で中心的な存在として活発に毎日を送っていました。ところが交通事故で足が不自由になり、それまで全く交流のなかった病弱で目立たないクラスメートの由香と二人で「みんなと一緒に元気な活動はできない子」としてクラスから取り残されていきます。「わたしは仕方なくこの子といっしょにいる」初めはそう思っていた恵美ですが、次第に自分にはなかった由香の素直さと優しさに気づき、癒され、二人はいつしか互いにかけていける存在になっていくという話です。「友達とは何か」を考えさせられるこの感動的な本を皆さんにもいつか読んでほしいと思います。

より良い人生を送る上で、良き仲間、良き友は宝物です。でも、友達関係の歪みや脆さに誰もが悩

んでいます。例えば、皆さんは、仲良くしていたはずの人とけんかしたり、なんだかその人がよそよそしくなったり、不機嫌になったりしたとき、不安になりませんか。不仲になるのがいやで、本当は考えが違うのに、相手に合わせてきたことはありませんか。人はどうしても、自分と同じような考えをもっていて、自分に合わせてくれる人を都合よく「友達」と思いがちですが、重松さんのこの本は、本当の友達はそういう人ではないのだということに気づかせてくれます。

本当の友達は、自分のダメな部分やカッコ悪さを全部さらけだしたとしても側にいてくれる人、側にいてほしい人、たとえ考えが真逆な時でも、それを伝え合い認め合うことで相手の成長や幸せを心から願える間柄の人なのではないかと私は思います。ですから、本当の友達はそんなに多くは見つからない。でも、皆さんには本当の友達の絶対に見付けてほしいです。

これから進む中学校や高校生活の中で、皆さん全員が、本当の友達を得、よき仲間にもまれて切磋琢磨しながら、よりよく生きていく未来を私は心から願っています。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。たくましく成長した我が子の姿を目の前にして、感慨もひとしおのことと存じます。

六年間、本校の教育活動に深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

大切な四十九人の卒業生たちが、これからも本校での学びを生かし、賢くしなやかに生き抜ける人へと成長されますことを教職員一同願っております。

ご来賓の皆様、本日はご臨席を賜り誠にありがとうございます。これまで子供たちを見守り、支え、応援して下さった皆様に学校を代表し心よりお礼申し上げます。これからも碓東小学校の振興と教育の充実に、変わらぬお力添えを賜りますよう、よろしく願いいたします。

卒業生の皆さん、いよいよお別れの時です。

最後にもう一つ、卒業の贈り物として贈りたいのは、「人生という時間は、今を生きることの連続なのだ」という鎌倉時代の僧、道元の言葉です。

皆さんの進むこれからの道程は、これまでより少し険しくなるはずですが、泣きたくなることも、ゴールをあきらめそうになる時もあるでしょう。でも、その一步一步の重さを大切に積み重ね、つなげていくことであなた方の人生は豊かな時間になっていくのです。ですからどうか、たとえ辛い時でも、この言葉と、皆さんを応援する碓東小学校の私たちのことを思い出し、その時、その瞬間に、生きている自分を感じながら力強く歩いていってください。

お別れは本当に寂しいけれど、あなた方の未来に幸あれと祈りながら、心静かに見送ります。

四十九人の愛すべき子供たち。

お元気で。さようなら。

令和七年三月二十四日

安中市立碓東小学校 校長 木口 敦子

